

大規模災害の発生に備えて



警防部

消防本部では、6月20日から22日までの3日間、震災対応初動措置確認訓練を実施しました。

情報指令課では、6月23日、27日、7月1日の3日間でコールトリアージ訓練を実施しました。

に係る情報収集及び整理を行い、第1回警防本部会議、第2回警防本部会議資料（緊急消防援助隊受け入れの可否）、第3回警防本部会議（緊急消防援助隊受け入れを判断）の作成を行いました。

1 消防本部震災対応訓練

(1) 訓練の目的

震災対応マニュアル（新体制）を活用した情報の収集・整理・報告内容の把握を主眼とし、本部員一人ひとりの役割の習熟を目的として訓練を実施しました。



グループ討議



座学

(2) 訓練内容

はじめにパワーポイントを用いた教養を行った後に、グループ討議を行いました。

グループ討議は、警防本部会議資料の作成



警防本部会議での資料説明

(3) 訓練の総括

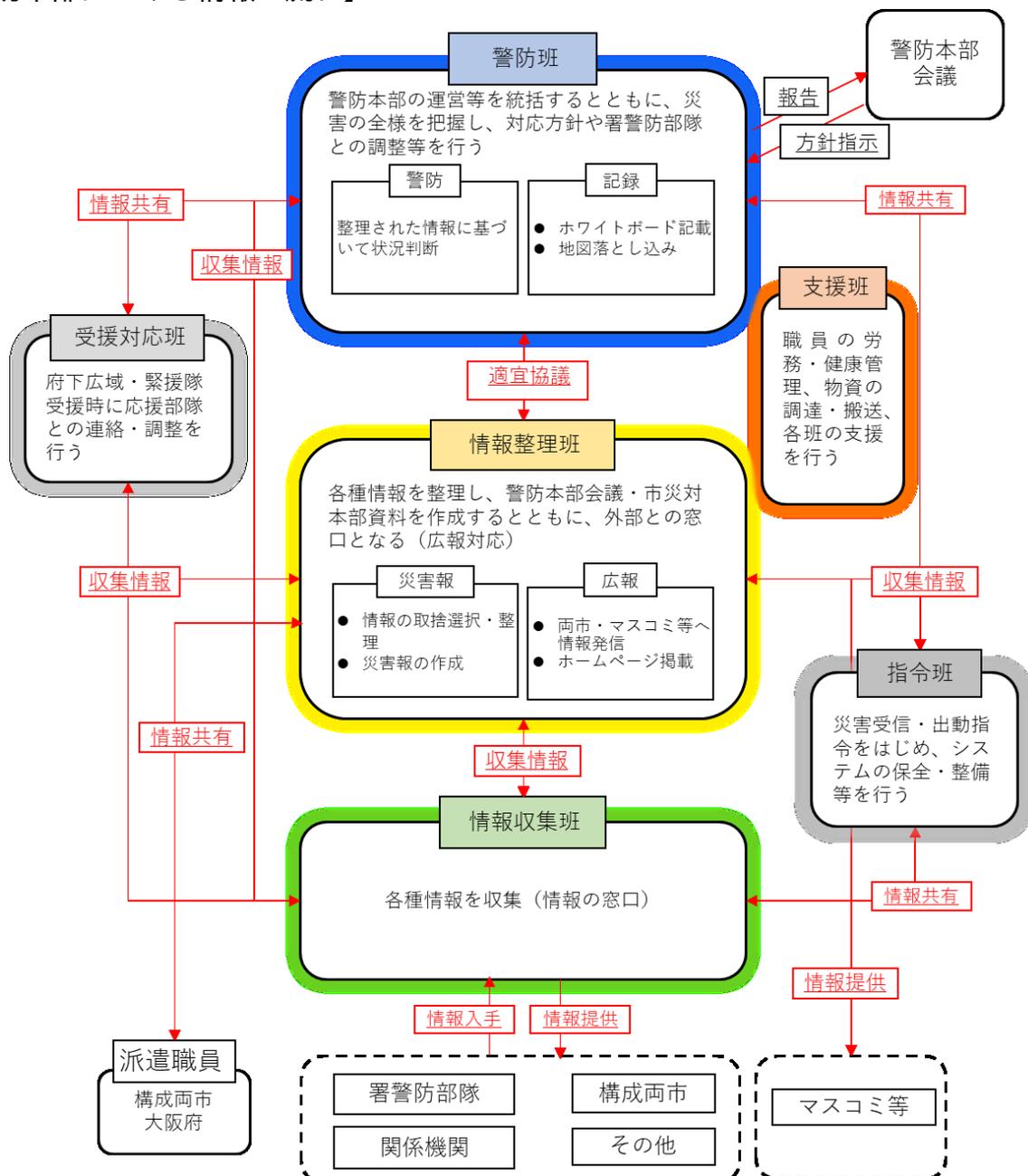
新型コロナウイルス感染拡大の観点から、過去2年間、震災対応訓練は中止となっていました。

それまでは、各班でミーティングは実施していましたが、今回は本格的に各班を交えた震災対応訓練を実施しました。変更点を確認しながら今後は各課員の班構成変更に伴い一人ひとりの役割の習熟が求められています。

いつ何時、近い将来、高い確率で発生するとされている南海トラフ巨大地震をはじめ、近年多く発生している集中豪雨などの風水害に備え、更なる防災・減災対策を強化することが我々消防職員の使命です。

そのためには、常日頃から危機意識を持ち、発災時には、迅速かつ的確に対応できるように消防防災体制の強化と整備に向け、今後もあらゆる事象を想定し、訓練を重ね検証していきます。

【警防本部における情報の流れ】



2 コールトリアージ訓練

(1) 訓練の目的

大規模災害等で、119番通報が集中した際、いち早く受信体制を確保し、災害通報の的確な処理など迅速かつ的確な指令管制能力の向上を図るとともに、情報指令課と指揮支援・調査隊の連携を密にし、実災害に備えることを主眼としてブラインド型の訓練を実施しました。

(2) コールトリアージとは

119番通報を受けた情報指令課が災害や救急事案の緊急度を判断し、出動の優先順位を決定するものです。

(3) 訓練内容

想定は、兵庫県南部を震源とする直下型地震が発生し、枚方市最大震度6強及び寝屋川市最大震度6弱を観測したとの想定で訓練を開始。地震発生後、119番通報が多数入電するという想定で訓練を実施しました。



119番通報受付訓練では、状況に応じてトリアージレベルを情報指令課長が指示し、それに応じて受信者がコールトリアージを実施

しました。

コールトリアージをもとに、受信内容及び指令内容を種別分けし、必要に応じて指揮支援隊員が追跡及び折り返しを行う、「要追跡折返し対応訓練」を同時進行で実施しました。



(4) 訓練の総括

情報指令課が通常の指令管制を行える119番同時受信件数を明らかに超える通報件数で訓練を実施した結果、各自の得手不得手や部内の課題が洗い出されました。

訓練後のミーティングでは課題をそれぞれで認識しあい、お互いがカバーできる体制をとることで課題を解決することが可能となりました。

また、現在は限られた訓練時間で問題点を洗い出して訓練後に上がった課題の解決をしていますが、実災害時には119番通報輻輳状態が長時間に及ぶことが想定されることから、今後は一時的な対応だけでなく長時間対応時に現れる特有の問題にも取り組んでいきます。